

## 7月分コメント

公務員は6月30日に賞与が支給されましたが、我々中小企業は、6月7月、8月とまざまざです。中小企業の約7割が赤字といわれる中で城南信用金庫の平成12年12月の調査では、56.5%の会社が賞与を支給しているのです。43.5%の中小企業が賞与ゼロですが、たとえ赤字でも賞与を支払っているのが現実です。中小企業は資金繰りが苦しくなるばかりです。

今回は、給与と賞与について私見を書かせてもります。社員に質問しました。給与は誰がどうもどうものですか。それはお客様です。それでは、賞与は誰がどうもどうものですか。それは、お客様です。

社員は納得しているおですが、私は納得していきませんでした。

給料はお客様が頂たくものです。お客様のために無理をし、期待に応えるために頑張るのは、お客様が支払って下さるお金のおかげです。この給料は、大企業でも、中小企業でも、公務員でも、それ程大きな差はありません。どこの会社の社員も一生懸命頑張ってくれてります。ありがたいことです。

しかし、賞与は、ゼロの会社が多い。一人当たり平均(36歳~38歳で勤続年数10~15年)70万円位の会社まであります。この差はなんなのでしょう。くやしうけれど我々中小企業は賞与が大企業や公務員に比べて少ないのが現実です。公務員は別にいて、これは利益の差です。儲かっている会社は、一人当たり50万円位(全体の3%~4%の企業平均で20万円~30万円位)です。利益がほぼ賞与の額を決定します。

なぜ利益の差は、何の差なのでしょう。これは社員の差ではなく、経営者の差と考える方がわかりやすいと思います。故一倉定先生も言っているように、「よい経営者と悪い経営者ではなく、儲かっている会社の社長と赤字会社の社長がいるだけだ」と。

このおな厳しい経営環境の中で努力をしながら、自分の給料もとれない中小企業の経営者にとって、経営者の差というものは、きつい言葉かも知れませんが、原因を、外部のせいにしても会社はよくなりません。原因を自分の中に見出し、反省し、将来社員が驚くおな賞与の出せる会社になってほしいと思います。6月のコメントで戦略と戦術について書かせていただきました。利益の出ている会社は戦略が正しいのです。頭をよく使い、行動が早く、よく勉強もしています。

賞与について世間並の額を出している社長さん、声を大にして言ってお下せり。賞与は、経営者が出ている。私のおかげである。感謝に下せり。

賞与を残念な感じがし出せない限り、少ないと思っている社長さん、過去のことは忘れましょ。未来は強い信念があれば、いくじでも利益は出せろ。明日に希望をもち働いて下せり。トップが元気で明るければ社員は安心して働いてくれます。打つ手は無限です。そう信じましょ。

4/14年7月4日 古田士 満